編集室

一人前になるのは大変だ。中大キャンパスをこの春巣立った卒業生は奮闘の日々だろう。毎朝の身なりが変わり、公私ともに覚えることがいっぱいある。アッという間に時間が過ぎていく。卒業した小誌学生記者からは「学生時代が随分昔のように思います」と疲労感をにじませたメールが届いた。

うなぎ屋の修業では「串打ち三年、板（割き）五年、火鉢（焼き）一生」というそうだ。「裂き（板）八年」とも。一人前の定義はそれぞれだ。

もう一人前だと胸を張っても、はたから見ればまだまだ半人前。小欄には苦い思い出が山ほどある。先走って足元がおぼつかなくなる。陸上競技のリレーメンバーなら、交代して加速するところでバトンを落とすようなもの。こんなとき「雑巾がけが足りない」とよく叱られた。相場の言葉に「もうはまだなり、まだはもうなり」がある。独善的な判断は危険であると教えている。

プロゴルファー、石川遼選手の最近のコメントに驚いている。「ファンあってこそのプロ。ファンが見たいと思うゴルフをしないと。僕はまだまだです」。プロ7年目。人気と実績で世間では“もう”の存在なのに、自己評価は“まだ”だ。プロの苛烈な競争社会にいるからこその発言だろう。

プロの仕事場ではうまくいって当たり前。それを毎日こなしていく。ファンや顧客の喜ぶ顔を何よりの励みとする。昭和の爆笑王と称された故林家三平師匠は「笑はせる　腕になるまで　泣く修業」と色紙に残した。涙は人に見せない。お見せするのは芸である。

新人が若手・中堅・ベテランと認められるまでには途方もない時間が流れる。頑張れ、ルーキー卒業生。一人前になるのは大変だ。

（編集長　久保田茂信）

Staff

◎取材協力

学事部
各学部事務室
大学院事務室
学生部
ボランティアセンター
図書館
国際センター
入学センター
学友会
準硬式野球部
学員会　ほか

◎写真提供＆協力

中大スポーツ新聞部

◎写真提供＆協力

AFP通信

◎学生記者

加藤静香
石崎春日子
中田実希
田中未来
山口莉奈
福田紗友里
武内優里子
関いづみ
矢嶋万莉子
佐伯綾香
山口萌絵
田中佑樹
畫間祐亮
齋丸仁志
竹田響
澤田紫門
森田晴香
小野理世
西村卓真
谷藤美佳
高瀬杏菜
中村亮士
高﨑莉世
野村睦
山下蛍
菅野誠一郎
前里実
（順不同）

Next Issue

『HAKUMON Chuo　』2014秋号 NO.238
10月25日 発行予定

学生記者が総力取材
お楽しみに！

学生記者が取材編集する大学広報誌 HAKUMON Chuo

2014 夏号 **NO.237**　2014年（平成26年）7月1日発行

発　　行　中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス　skubota@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当　『HAKUMON Chuo　』☎042-674-2048